

令和7年度 科目名「はじめてのデータサイエンス」自己点検・評価

評価日時 令和8年2月26日、3月12日、4月9日、4月30日および5月1日

開催会議 教務企画委員会（2月26日、4月9日）、共通教育委員会（3月12日）、全学教育推進会議（4月30日）
自己点検・評価委員会（5月1日）

目的 令和7年度開講の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の自己点検・評価

評価項目 文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」

自己点検・評価の視点	評価・意見等について
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>・令和7年度より、内製化し、本学担当教員の作成した教材を利用している。そのため、科目担当者がプログラムの履修・修得状況について、総合教育システム（UNIVERSAL PASSPORT）にて履修者数、各学習者の進捗状況を把握している。</p> <p>・全学部全学科に開講されているが、令和6年度から、1年生は「ICT・データサイエンス」領域の必修科目「はじめてのデータサイエンス」として後期に受講しており、令和7年度までの1・2年生の履修登録者数は100%（全員）、3年および4年生は共通科目の選択科目「総合科目（はじめてのデータサイエンス）」の位置づけであるため、履修を希望する学生が受講した。</p> <p>・令和7年度受講者数は、1年生は504名、2年生は前期141名・後期19名、3・4年生は前期131名・後期36名、全体としては831名が受講した。</p> <p>・単位取得状況としては、1年生は475名、2年生は前期115名・後期7名、3・4年生は前期106名、後期24名、全体として727名が単位取得した。</p>
学修成果、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>・履修者向けのアンケートを講座への興味関心や講座終了後に期待すること（1回目）、講座中間に実施するアンケートにおいてオンライン授業への反応や疑問・質問（2回目）、最終テスト時に行われるアンケートにより理解度や今後への期待感（3回目）の合計3回、前期および後期に行っている。</p> <p>・学修的に毎年前期および後期に行っている「学生による授業評価アンケート」にも回答してもらい、学生たちの受講に対する意見や感想なども把握、アンケート回答に対する担当教員のフィードバックも行われた。</p> <p>・前期は履修希望者が受講、後期は必修科目（1年生）、3～4年は履修希望者が受講した。履修者向けのアンケートの結果集計にて、分かりやすさに関する質問では、後期には「全体的に分かりやすかった」が35%、「分かりやすい講義が多かった」が48%であった。回答の理由の自由記述では「新しくふれる授業内容だったので、単語など理解しにくく難しかった。」といった指摘がある一方、「分かりやすい例を挙げて、データの理解度が深まったと感じたから。」との記述もみられた。</p> <p>・多肢選択式の42問から成る最終テストにおいて、正答率が最低でも7割であったことから、各回の内容への十分な理解が示唆された。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	<p>・事後アンケートで、自分が行った受講上の工夫も含め、今後の受講生向けにアドバイスを問う質問を設定した。回答には「自分のペースで好きな時間に学習できるのでいい」「空きコマや、少し暇な時にやるとよい」「移動時間などに動画を見る」といった記述がみられた。実習や実験、資格取得を目指している学生も多いなか、オンデマンド型授業の利点を強調する意見が多数であった。</p> <p>・全学科の1年生全員が必修として受講した令和6年度には、「受講目的が分からない」といった感想やオンデマンド型授業の受け方に戸惑う感想がみられたが、本年度は「私たちの生活に関わっているデータについて学べて良かった」「オンデマンドの授業で学びに少し不安があったが、動画をみて興味をもつことができた」などのような肯定的な受け止めが多かった。</p> <p>・後輩へのアドバイスとして「計画的に進めるべき」という記述が多く、裏返しとして「動画視聴を溜めてしまった」という感想も散見された。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>令和6年度入学生（1年生）から、共通科目「ICT・データサイエンス」領域の全学必修で開講しているため、令和6年度入学生の履修率は100%であった。</p> <p>令和5年度以前入学生（3・4年生）は、1354名。そのうち、修得済み学生数は、369名（27.25%）であった。</p>
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>・令和7年度に履修した4年生（91名）の進路先として、システムエンジニアを選んだ学生が3名がいた。</p> <p>4年生の履修者数が昨年度よりも40名ほど増え、データサイエンスの学びと活用への関心が強いことが分かった。</p> <p>近年では、小学校や幼稚園、保育所などでもデータを取り扱ったり、保護者へのお知らせをメールで配信や専用のアプリを利用しているところも増えている。就職した先では少なからずデータを扱ったり、ソフトウェアを駆使する仕事に就く学生もおり、AI、データサイエンスの素養を身に付けることを目的とした当該科目による学びが、就職先で活かされることを期待したい。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>本学の外部評価委員会は、産・官・民・学に在職中の方々に委員を依頼している。年に1回行われる外部評価委員会の会議において、授業内容、手法などのご意見をいただいている。</p>
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意味」を理解させること	<p>・「本講義で得られた知識が、将来に活かせるか」という問いに対して、「大いに活かせる」「少し活かせる」を合わせて9割を超えた。また、達成できた自己評価する科目の到達目標（複数選択可）では、「AI・データサイエンスについて自ら学び、活かす姿勢を身に付ける」が最も多く選択された（26%）。満足度への回答は「楽しくできた」「どの回も面白かった」といった理由とともに、「満足」41%、「やや満足」38%となり、多くの学生にとって楽しく、意義深い学びとなったことが伺える。</p>
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	<p>・学生から質問があった場合は、授業担当者が随時相談に応じ、学生の疑問や不安等を解消している。</p> <p>・動画で提示するスライドに書き込みを行う工夫を取り入れた結果、「重要なところをマーカーしてくれる」「スライドにポイントを書き加えてわかりやすかった」などの記述がみられ、一定の成果があったものと考えられる。</p> <p>・モデルカリキュラムで「オプション」として位置づけられる応用的な話題を講義1回分組み替え、学生の興味をより喚起しつつ、新たな視点の導入を試みた。</p>